

## 【多摩丘陵・私の出会った生き物たち 4】

### <スプリング・エフェメラル>

桑原紀子

今年の春は急ぎ足で通り過ぎて行くようです。パステルカラーの雑木林は今、若々しい緑色に変わり、ウワミズザクラが白い穂状の花をその中に浮かび上がらせています。

早春から春にかけて、一年に一度姿を現す植物や蝶の中に、スプリング・エフェメラルと呼ばれるものたちがいます。直訳すると、春の儂さ、ですが、転じて春の妖精とか、春の儂い命と解釈されています。

春の一時期にきらめくように出現し、木々の緑が濃くなってくる頃は姿を消してしまいます。

花で言えば、カタクリ、フクジュソウ、シュンラン等、蝶はツマキチョウ、ミヤマセセリ、コツバメ、ギフチョウなど、どれも春のひと時を急ぎ足で駆け抜けていく美しい生き物たちです。

春がくると、今年の出会いに胸は高鳴り、雑木林に出かける回数は増えていきます。

でも残念ながらあまり開発が進んだ地域では、スプリング・エフェメラルたちの姿は少なくなってしまう。本当に儂い命なのです。

今年、西緑地の明るい林を飛んでいたのは、ツマキチョウ、ミヤマセセリです。ツマキチョウ

の雄は白地に翅の先がオレンジ色で尖り、翅裏は複雑な模様で特徴があります。幼虫の食草はタネツケバナなど。ミヤマセセリは褐色の

地味な蝶ですが、翅を開いて止まると、黄斑が素敵です。食草はクヌギ、コナラです。

コツバメは、アブのように敏捷に飛ぶ小さな黒っぽい蝶で、なかなか

か巡り会えません。開発の進んだ鶴川辺りにはいないと、思い込んでいました。

先日、蝶好きのNさんに道で久しぶりにお会いした時、家族の介護の為、どこへも行け

ないと言われながら、時々訪れる西緑地でツマキチョウ、ミヤマセセリ、コツバメを見た事話を話されました。私はびっくりしました。でもコツバメの幼虫の食草は、アセビやツツジ、ガマズミなので、これらのある西緑地においても不思議はないのです。

思い込みを捨てて、自然をよく見ることの大切さを、改めて教わったのでした。

来年の春は、西緑地のコツバメに会えるかもしれません。

